



2010年 メキシコツアーでのWS文章より 高木雅代

私がお話できるのは、まりまりの成り立ち、俳優としての観点からまりまりの活動を始めてから気付いたこと、得たこと、そして作品をつくるとき、演じるときに気をつけていること、感じていることです。

<まりまりの成り立ち>

そもそも「お芝居デリバリーまりまり」を作るきっかけは、日本は他国と比べても特に舞台俳優が食べていくことが難しい環境で、そんな中、昔話をやろうというのは、役者がほそぼそとでも芝居で食べていくためには、何ができるだろうと仲間と考えた苦肉の策でした。

一部の演劇に詳しい人たち以外に、演劇をもっと身近に感じてもらえて、面白いと思えるものはなんだろうと思い、「昔話がいいのではないか。」ということになりました。だから、そんなに昔話を芝居でやることに興味があったとか、こういったことが世の中でそこまで需要があるとは思っていませんでした。

まりまりも始めたころは、びっくりするほど地味な活動を続けていました。“プレイパーク”と呼ばれる、公園で子供たちが遊んでいるところに、無理やり場所を作って、「白雪姫」や「桃太郎」を演じていると、面白かったのか、面白くなかったのか、女の子に新聞紙でまるめた棒で、みぞ落ちにこれでもかというほどの一発をいただいたりと、最悪散々のスタート。正直「こりゃ、とんでもないことに足をつっこんでしまったぞ。」と帰りの電車でため息をつきました。自分自身の選択にも半信半疑のなかで、迷いながらも活動はポツポツと続きます。

<そして気付いたこと、得たこと>

幸い営業能力のあるメンバーと面白い視点をもった仲間が一人、また一人と集まってきて、まりまりはやっとお仕事を受けられる状況になっていきました。

しかし、とにかく少人数で始めたもので、お金もないし、あるのは体だけ。それが幸いな方向に進んだのがわかったのは、興行を重ねていく中でした。

私たちのお芝居は、私たちの想像する世界を道具・舞台セット・衣裳のないなかすすめていきますが、お芝居をみた人たちが三々五々好きなようにお話を頭の中で描いていくという面白い作用が働いたのです。人にとって一番面白いのは、その人の中で進む想像の未来。それをわたしたちの芝居が刺激を与えることで自分の大好きなように変えて、オリジナルの想像の世界へと飛んでいくことができるという不思議な関係へと発展しました。

それは、興行、興行でいろんな表情を見せてくれる、子供たちや大人たちから感じました。「誰も同じものをみていない、ひとりひとりが違う世界をみている。そして、ときには、見えないはずのものをみんな同じものを想像して笑いあう。すごい。大人も子供が関係ない。人間の能力はすごい！！テレパシーだ！」わたしはとても心が騒いでしかたがありませんでした。

また、まりまりは、いろんな俳優の寄せ集まりなので、知らず知らずのうちにそのことが観ている観客は「誰かに合わせなくていい。いろんな人がいていい、ひとりひとりが違うことがこんなに面白くて、個人が光ることこそがいいのだ」、と感じてくれるようです。

わたしは、まりまりの活動をとおして、人と向き合うこと、自分と向き合うことそしてこれからやってくる自分の未来をみつけることが少し上手になりました。

いろんなもの(ごてごてしたもの)をとっぱらったら、こんなにシンプルに生きていく中で必要なものだけが残っていたらいいです。情報は与えすぎるより、少し少なめのほうが本当は豊かなのだなと感じます。

<気をつけていること>

こういったことから、私たちの仕事は、人の人生に関わる仕事の依頼も多くなりました。それはとても前向きで、かつ切実なオファーが多いです。今、この時代で、誰かを支える立場の人たちからのオファーが多いように感じます。

たくさんの興行主の方たちが、それぞれに熱い思いをいろんな情報ツールを使って伝えてくれます。その思いに心が震えることも多々あります。だいたいにおいて、そういった企画を立てる人たちは、恐ろしくくらいにパワフルで、人への影響力をもった人たちです。

わたしは、依頼主のその熱い気持ちをたくさんうけとめたいと思いますが、その半面、俳優として、冷静にある程度受け流すように心掛けています。この作業が非常に大切です。これはなんのことか意味がわからないかもしれません。依頼主のためにやるのが仕事だと思われるかもしれませんが、しかし私たちまりまりは、支援団体ではなく「ものづくりの専門家」なので、自分たちの面白い、大事だと思うことを一番大切にすることが、よりよい作品づくりへと導いてくれると信じています。作品づくりに対する姿勢に妥協がないこと、それが結果的に依頼主への希望にこたえることになると思うのです。

興行で大切なのは依頼主がなぜ私たちを必要だと思ったのか、そしてその人たちの活動はいったいどういったものなのかを知り、それを踏まえた上で私たちが、その場にあった「最高の魔法」をどうやって起こすかを試行錯誤することだと思っています。それはきっとこれから先も少なくともわたしの中では変わらないだろうと思います。

お芝居テリバーり まりまり メキシコ2010年巡演記 (まりまり編)

2006年まりまりは、初めて路上でお芝居をして、衝撃を受けました。劇場の外は、こんなに広い。それ以来、地域のお祭りや、福祉施設、幼稚園、国内外の学校などでお芝居をし続けてきました。障がい者と近所の親子が会うお芝居会をしたり、介護職の楽しさを伝える為のお芝居会をヘルパーさん達とひらいたりなど、人を繋ぐお芝居会を企画したり。

2010年、路上でまりまりを観たギジェ(メキシコで路上演劇祭や社会に働きかける演劇をプロデュースするギジェル・モディアス)に、メキシコ路上演劇祭への招待をいただきました。世界で活躍するマイムパフォーマーの**里見さん**、路上演劇祭の事務局の**成沢さん**も渡航しワークショップや公演などをされるとの事。

メキシコシティの最貧地区で路上の子ども達にお芝居を観せられる。まりまりの**たま・うららちゃん・ほた**はスペイン語のお芝居を稽古し、決死の覚悟で！？出かけました。でも犯罪多発の最貧地区と聞いていた街**イスタパラパ**の路には綺麗なひまわりの絵が描かれ、広場では写真家の展示や、手作りのオブジェがならび、生き生きと人が行き交ってました。地区の文化センターが何年もかけてこの地域を変えたのだそうです。

そしてギジェはまりまりに、「まず、この文化センターで働く文化イベントの企画者達にワークショップ(WS)をして欲しい」と言いました。通訳無しでの3日間のWSで、まりまりは、どんな場所でも道具を使わず上演でき、大人も子供も、劇を観た事のない人も楽しめる、まりまりお芝居の作り方と、今迄やってきた「人を繋ぐお芝居企画」を紹介しました。

彼らは演劇の経験は無い人たちでしたが、とても楽しんで、そして、とても真剣にWSを受けてくれました。彼らが、すぐにでもこのお芝居をこの街で使おう、と考えている事が伝わってきました。別れ際には、皆が熱いメッセージをくれました。「楽しくて深い工夫のあるアートを教わった、世界中でやって欲しい!!」夢中で喋り続ける彼らを見て、次は絶対もっとスペイン語を勉強していくぞ、と心に決めた3人でした…。



ギジェ ほた 里見のぞみさん うららちゃん 成沢さん たま

2010年10月20・24・11月10日・小金井市のスペイン語学校でメキシコ人の先生と稽古

30日・メキシコ人の子供達のハロウィンパーティで初めてスペイン語で出前上演

11月2日・3日・駒込の劇場ラグロットでスペイン語上演

8日・六本木クラブSDLXでスペイン語上演

11月14日 メキシコシティまで15時間の旅。成沢さん合流。・宿泊するギジェの自宅へ到着。大きな犬コンパ이의歓迎を受ける。

15日 稽古及びWS打合せ。夜・ギジェたちに居間で予定演目を観てもらおう。スペイン語に意見を貰う。朝3時まで翌日のWSのミーティング。

16日 ストレッチと稽古。文化センターでワークショップ。うららちゃんの英語、ほたのスペイン語で自力通訳。

17日 ワークショップ2日目 WS開始最終日にアンケート*を回収することにする。深夜スペイン語で作成作業。

18日 ワークショップ3日目 最終日 人が増え参加者の子供も参加、明日の公演に皆来てくれるとの事。

19日 いよいよ劇場で本番。WS参加の皆が見てくれる。里見さんも本番。素晴らしかった！

20日 まりまり半屋外で本番 地区の文化フェスの一環 ギジェの家でお別れパーティ何十人も人が集まる。

21日 里見さん朝4時半帰国を見送る。初観光！！国立博物館・フリーダの家・夕食はレストラン！市場で買物

22日 4:30 ギジェ宅 出発 成田 16:35 着 成沢さんと別れる。

12月12日・在日メキシコ大使館での公演 沢山の在日メキシコ人家族にお芝居を見せる。やっぱりメキシコの人たちは暖かい。

準備した演目 北風と太陽 ウサギとカメ 浦島太郎 こぶとり爺さん 金の斧銀の斧 魔法の滝 みにくいアヒル 大きなカブ(参加型)

メキシコWSでやったこと(抜粋)

- ・まりまりの、人を繋ぐお芝居企画の紹介
- ・まりまりのお芝居を見てもらい、実際に昔話を作ってもらおう。
- *まずはロパク音響のワーク「水の音を出して海の気分を」
- *キャラクターの作り方「絵を見てマネして」
- *空間の使い方 試してみよう！
- * まりまり「チロル」の決まりを説明。



*WSのアンケート抜粋

自分のプロジェクトの助けになる素晴らしい事を学びました。
子供達に街の歴史や昔話をしてやるために使いたい。
壁に貼られた演技のためのキーワードが役に立ちました。
想像と身体の動きの利用の仕方。人生の楽しみ。あなたたちの物語はとても美しかった。
最大限に想像させ、最良の方法で表現し、観客を関与させる事を学べる内容だった
身体と音とその他の物を使うコミュニケーション方法を学びました。
とても楽しんだし、このみなさんの仕事がとても好きでした
素晴らしい仕事です、がんばって！又来てね！！